



# 10-1.毒キノコ（植物性自然毒）

	ツキヨタケ	クサウラベニタケ	カキシメジ
特徴	<p>【傘】大型で10～20cm程度。初め黄褐色で、成熟すると紫褐色～暗紫褐色。半円形、まれに円形で濃色の小鱗片を有する。</p> <p>【ひだ】白から薄い黄色で幅は広い。</p> <p>【柄】太く短い柄が傘の側方に付くものが多いが、中央に付くものもある。ひだの付け根につば様の隆起帯がある。色は傘より淡色。肉の内部は暗紫色～黒褐色のしみがある。このしみは不明瞭なもの、ないものもある。</p> <p>【発生時期】夏～秋（特に秋）</p> <p>【発生場所】ブナ、イタヤカエデなどに重なり合って発生する。</p>  <p>滋賀大学のホームページより転載</p>	<p>【傘】3～10cm程度で比較的小型～中型。灰色～黄土色(赤みを帯びるものもある)、茶色のももある。乾燥時は絹のような光沢があり、湿潤時は濡れたような色、ムラがあり、粘性がある。</p> <p>【ひだ】白色から成熟すると肉色になる。</p> <p>【柄】柄にも絹のような光沢がある。比較的、細い。縦スジがある。中空でもろく指でつまむと容易につぶれるものが多いが中実のものもある。</p> <p>【発生時期】夏～秋</p> <p>【発生場所】広葉樹の地上に発生する。</p>  <p>厚生労働省のホームページより転載</p>	<p>【傘】3～8cm程度で比較的中型。赤褐色～くり褐色またはうすい黄褐色。湿っているとき粘性があり、葉や木くずが張り付いている。</p> <p>【ひだ】柄に対してくっついており（湾生）、密である。白く、古くなると赤褐色のシミができる。</p> <p>【柄】上部が白く、下部はうすいまだらな赤褐色を帯びている。根もとがやや膨んでいる。</p> <p>【発生時期】秋</p> <p>【発生場所】ブナ、コナラ、クヌギなどの雑木林の地上に群生して発生する。</p>  <p>東京都のホームページより転載</p>
潜伏時間	食後30分～1時間	食後10分～数時間後	食後30分～2時間
症状	嘔吐、下痢、腹痛などの消化器系の中毒症状が現れる。幻覚痙攣を伴う場合もあるが、翌日から10日程度で回復する。	嘔吐、下痢、腹痛などの胃腸などの消化器系中毒を起こす。発汗などムスカリン中毒の症状も現れる。	頭痛を伴い、嘔吐、下痢、腹痛などの症状を起こす。
毒成分	イルジンS、イルジンM、ネオイルジン	溶血性タンパク、コリン、ムスカリン、ムスカリジンなど	ウスタリン酸
間違えるキノコ	ヒラタケ、ムキタケ、シイタケ	ウラベニホテイシメジ、ホンシメジ、ハタケシメジ	ニセアブラシメジ（クリフウセンタケ）、チャナメツムタケ、シイタケ



# 10-2.毒キノコ（植物性自然毒）食中毒事件分析

発生年	摂食者数	患者数	発症率	原因食品	潜伏時間	症状発現率			
						下痢	発熱	嘔吐	腹痛
昭和29年	17人	16人	94%	ねじき葉（自家製食事）	3時間	0%	0%	65%	0%
昭和37年	17人	17人	100%	ツキヨタケ（家庭料理）	0時間	0%	0%	0%	0%
昭和38年	12人	12人	100%	イッポンシメジ（家庭料理）	0時間	0%	0%	0%	0%
昭和53年	6人	4人	67%	イッポンシメジ（家庭料理）	0時間	0%	0%	0%	0%
昭和56年	6人	6人	100%	ヒカゲシビレダケ（家庭料理）	0時間	0%	0%	0%	0%
平成10年	6人	6人	100%	ツキヨタケ（家庭料理）	1時間	0%	0%	100%	33%
平成10年	3人	3人	100%	カキシメジ（家庭料理）	1時間	100%	0%	100%	0%
平成14年	4人	4人	100%	カキシメジ（家庭料理）	6時間	100%	0%	75%	0%
平成19年	1人	1人	100%	ツキヨタケ（家庭料理）	1時間	0%	0%	100%	0%
平成21年	4人	4人	100%	ツキヨタケ（家庭料理）	0時間	0%	0%	75%	0%
平成22年	3人	3人	100%	クサウラベニタケ（家庭料理）	1時間	100%	0%	100%	0%
平成22年	10人	5人	50%	クサウラベニタケ（家庭料理）	2時間	20%	0%	100%	20%
平成24年	2人	1人	50%	バイケイソウ（家庭料理）	2時間	0%	0%	50%	0%
平成24年	2人	1人	50%	ツキヨタケ（家庭料理）	2時間	0%	0%	100%	0%
平成26年	16人	15人	94%	ツキヨタケ（家庭料理）	2時間	13%	7%	80%	40%
平成28年	2人	2人	100%	ツキヨタケ（家庭料理）	3時間	0%	0%	100%	0%
	111人	100人	90%		1時間	13%	1%	50%	9%

昭和29年から平成28年までの63年間に、16件の事件が発生し、患者数：100人、死者：0人、摂食者：111人に対する発症率：90%（事件平均：88%）、1事件あたりの患者数：6人であり、小規模な事例が多い。

原因食品は、ツキヨタケ（7件）による事件が多く、クサウラベニタケ（2件）、カキシメジ（2件）等による事件もある。

平均潜伏時間は、0～6時間（事件平均：1時間）であり、短時間で発症する事例が多い。

症状は、嘔吐が多いが、事例、原因食品により異なっている。